

# 自己審判制競技の問題性 ～アルティメットに着目して～

松山 千紗 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新井 博

キーワード：自己審判制 誤審 判断

## 1. 緒言

アルティメットの最大の魅力は、自己審判制で行われるスポーツということである。多くのスポーツには審判が存在し、審判の判断のもとで試合が動いてきた。野球でよく見られるのは、誤審でチームの監督と審判が口論している姿であるが、最終的には審判が最終判断を下す。しかし、アルティメットの場合はプレーヤー同士の判断のもとで行われるところが他競技にはないおもしろい点である。また、自己審判制なだけに、的確な判断が下せなかったり、納得のいかない判断が下される時が多々ある。そこで本研究では、アルティメット競技者が試合中の自己審判の状況やコート外からの自己審判性で起こり得る問題をどの様に処理しているのか、各々の考え方をすることを目的とし、今後のアルティメットのルールを熟知していなければ適切な判断は下せないと考えられるので、ルールの認知度についても研究していく。

## 2. 研究方法

近畿圏内でアルティメットの活動を行っている大学生チーム3校を対象とする。アンケートを通じて、プレー中やコート外から見た問題を考えていき、今後アルティメットに審判が必要なのかも考えていく。

## 3. 結果と考察

ルールの認知度について聞いたところ、学年が上がるにつれてアルティメットのルールを熟知している者が増加してくることがわかっ

た。これは、アルティメット経験歴の違いによる結果だと考えられる。しかし、ルールを熟知している者でも“判断しかねる”や“コールするタイミングを逃してしまう”という回答が多く目立った。競技をしながら自己判断することはプレーにも集中しなければならないので難しいと考えられる。また、コート外から見た試合風景の問題についても聞いてみたところ、“外からの方が誤審はわかりやすいが不明な判断もある”と回答した者が多い結果となった。最後に、学年別に今後の審判の有無を聞いてみると経験が深い者ほど“無し”と回答した。経験を積むほど自己審判制のおもしろさに惹かれていくことがわかった。

## 4. まとめ

学年関係なく審判の有無の集計をとったところ、“審判有り”と回答した者が“審判無し”と回答した者より若干多い結果となった。アルティメットは、選手達がプレーをしながらコールをとり、そして相手チームに納得のいくような状況説明をしなければお互いに不満を持ちながらプレーを継続させなければならない。これらは、得点と時間に関わってくる問題点と言える。審判がいないと判断状況に大きな問題がでてくることがわかった。

## 5. 参考文献

・日本フライングディスク協会

<http://www.jfda.or.jp/>